

東教大が新大学構想

副学長導入や講座制廃止

学園の筑波移転に伴う「新大学構想」を検討している東京教育大は、副学長導入や講座制の廃止など、大規模な改組を計画している。このため、新大学の構想として、大規模な改組を計画している。このため、新大学の構想として、大規模な改組を計画している。

このため、新大学の構想として、大規模な改組を計画している。このため、新大学の構想として、大規模な改組を計画している。



深山 桜

文学部でフタマタ署名も

東教大の移転
東京教育大は、千四百名、

評議会の開いて、筑波移転を最終的に承認する予定だが、移転反対派が主張を強める。文学部で、ついに移転賛成、反対の、ふたまた署名。すでに教員らが飛び出し、内部事情は、ますます複雑さを加えている。

再開している大島清、藤井忠貞教授らは、同日「筑波シヨーン」に賛成する」と声明を発表した。この声明は、移転賛成を再開している二十名、すでに教員らが飛び出し、内部事情は、ますます複雑さを加えている。

7/24

エニワリ

「一方「新大学構想」が発表されたところ、反対派が集めた移転反対の署名には、教授会構成メンバー六十人が参加しており、「こんど、さらに五十六人の増加が見込まれる」という。この賛成、反対派の合計は四十八人。

新大学構想の骨子

▽新大学の性質 ①現在の学部分立体制を改め、大学院と研究所を統合して、研究複合体制を設立する。教員は原則として大学院、研究所に属する。②学部教育では力を入れない。③大学院教育は、ローテーション方式の採用。④講座制の廃止。⑤副学長導入。⑥理事会設置などによる行政機能の強化など。

東教大 筑波移転きまめる

評議会 入試実施に努力

筑波研究学園都市移転をめぐる、出陣の折衝によって、東教大が決定した。四学部の入試中止という決定は、いまだに四十七年非常事態を招いた東京教育大は、度まで前倒し、十年で施設の手配を終了させ、評議会を開き、決定。

東教大が、文学部教育を中心とする反対派教育界、学生を強く刺激した。これは、東教大の学部部市移転の最終決定を意味するもの。この決定は、東教大の学部部市移転の最終決定を意味するもの。この決定は、東教大の学部部市移転の最終決定を意味するもの。



エニワリ

大学のザレうた

「金曜日にお酒のついでに生まれた。第一回の十八日には、主として文学部の教授約十五人が本部の定年で声を張り上げた。昔々歌のなかのM・P派はマスタープラン委員会、宮島は宮島学園長代行のことで、金曜日は評議会のあついで、この二か月、きまってきた学生と機動隊との間にせり合いが続いてきた。

移転の原因は、いうまでもなく筑波学園都市への大規模な移転をめぐってだが、こつたザレうたが、教員の手でつくられたことに、長期紛争の根の深さが浮き彫りにされている。大学執行部が全教員に配った補償の一連書等を、反対派は四人署名と噂。なんとも同様な風景だが、この騒動に近づくにつれて、ゾクゾク感の増える。閉塞感と不安感。から、両派の対立は感情的にエスカレートするばかり。話し合いという常套はとうとう消滅した。

こんな異常事態のなかで、昨年度卒業予定の学生五千人中約四割が、留年となった。このままでは、東教大のキャンパスに、これ以上ザレうたでは済まされない。